

都市再生整備計画

めいえきしゅうへん
名駅周辺地区

あいち なごや
愛知県 名古屋市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	愛知県	市町村名	名古屋市	地区名	名駅周辺地区	面積	310	ha
計画期間	令和7年度～令和11年度	交付期間	令和7年度～令和11年度					

目標
○魅力ある地域資源を活かした多彩なまちづくり、相互につなぐことで一体性のある、めぐりたくなるまちの形成 ・城下町から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様なまちの魅力を育て、活かす ・人が主役の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・リニア中央新幹線の開業予定により、名古屋駅の拠点性や利便性がさらに高まる。名古屋駅周辺が名古屋大都市圏の玄関口として圏域を牽引しながら継続的に発展していくには、リニア駅の駅前にふさわしい空間の形成を進める必要がある。 ・平成26年9月、本市は「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定し、名古屋駅周辺のまちづくりにおける、目標とするまちの姿やその実現に向けた取り組みについて明らかにした。その中で、都心における多彩な魅力をもったまちづくり、つないでいくことを基本方針の一つと位置付け、地区の特色を活かしたまちづくり、訪れた人が心地よさを感じる空間を形成することとしている。 ・平成31年3月、「都心部まちづくりビジョン」を策定し、行政と民間で共有できる都心部の将来像として、各種まちづくり計画・構想を総括し、全体の方向性を提示した。その中で、回遊性の高い魅力ある歩行者空間の形成を図るため、快適性の高い歩行者空間の整備や緑化、魅力的な店舗の立地や滞留空間の形成等を行い、人々の賑わいを広げることとしている。 ・名駅南地区においては、令和6年3月、「名駅南まちづくり方針」を策定し、リニア中央新幹線開業後を見据えた名駅南の将来像等を示した。その中で、賑わいがあふれるウォーカブルなまちづくりを方針の一つと位置付け、地区の住民やワーカー、来訪者にとって、安心・安全な道路空間を確保するとともに、周辺の魅力的な地域と連携した交流の促進に向け、道路空間と公園空間と民地空間が一体となった賑わいあふれる歩行者空間や居心地の良い滞在空間を創出し、ウォーカブルな(居心地が良く、歩きたくなる)空間への転換を目指し、公民連携により取り組みを進めていくこととしている。
課題
・名古屋駅周辺には、多彩な地域資源が存在していることから、それぞれの地区の特色を活かしたまちづくりを進め、地区の魅力を高めることが求められる。 ・駅とまち、まちとまちをつなぎ、回遊性を高めるため、歩行者空間を重視したまちづくりを進めるとともに、栄、名古屋城などとの連携を強化することが求められる。 ・名駅南地区においては、建物用途は、事務所が過半数を占め、近年では共同住宅が増加傾向にある。物販・飲食店舗などの商業施設は、都心部平均より低い水準であるため、生活利便施設等の充実が必要な状況である。また、名駅南の道路率は都心部に比べ、高い水準にあり、安心・快適な道路空間を確保するとともに、沿道の低層階部分や駐車場等の低未利用土地などを活用した魅力の創出や、広い道路空間や公開空地等での賑わい創出が求められる。
将来ビジョン(中長期)
【名古屋駅周辺まちづくり構想(平成26年9月策定)】 世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ ～国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち～ 基本方針1 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す 基本方針2 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる 基本方針3 都心における多彩な魅力をもったまちづくり、つないでいく 基本方針4 リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する
【都心部まちづくりビジョン(平成31年3月策定)】 名古屋駅地区 未来を体感し創造する交流のターミナル スーパーメガリージョンの中心にふさわしい多様な人材の交流を促進し、日本を支える新たな価値を生み出す、国際的・広域的な拠点・顔を形成します。 魅力ある地域資源を活かした多彩なまちづくり、相互につなぐことで、一体性のある、めぐりたくなるまちを形成します。
【名古屋都市計画マスタープラン2030(令和2年6月策定)】 都心部 リニアインパクトを最大化し、世界に冠たる「NAGOYA」の象徴たる都市空間を形成します。 方針1 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備 方針2 訪れたくなるワクワク感のあるまちを実現する都市魅力の向上 方針3 都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画
滞在快適性等向上区域の考え方 名駅南まちづくり方針(令和6年3月策定)の対象範囲を目安に滞在快適性等向上区域を設定し、賑わいあふれるウォーカブルなまちを目指す。 滞在快適性等向上区域での取組 歩行者空間の拡充・改善や、道路空間・公園空間・民地空間(公開空地・低未利用土地)の活用等を行う。 (マルシェ・キッチンカー・オープンカフェ・パークレット・ベンチ・ゲートサイン・シェアサイクルポート等の設置)

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
シェアサイクル利用回数	回	都市再生整備計画区域内の特例占用で設置しているシェアサイクルポートの年間利用件数	シェアサイクル利用が増えることで、回遊性の向上につながる	0	令和5年度	1,000	令和11年度
主要交差点の歩行者交通量	百人/日	名駅南地区内の主要交差点での1日当たりの歩行者交通量(平日15時間調査)	名駅南地区の回遊性が高まることで、歩行者交通量が増加する	89	令和5年度	93	令和11年度
公共空間等を活用した催事の箇所数	箇所・日	滞在快適性等向上区域内での公共空間等を活用した催事の箇所数(各日合計値)	公共空間等を活用した催事が、人が主役の歩いて楽しい空間の形成に資する	9	令和5年度	20	令和11年度

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
・多様な地域資源の魅力を高め、多様で特色あるまちを形成する ・地域のまちづくり活動への支援と協働により、エリアマネジメントの促進を図る ・回遊性と快適性の高い歩行者空間の形成を図る		【基幹事業】 ○高質空間形成施設（緑化施設等） ○滞在環境整備事業 ・社会実験 ・シェアモビリティの設備整備
その他		
【その他官民協働の取り組み事例】 ・令和5年度 名駅南地区にて道路利活用の社会実験実施 【名駅南まちづくり方針（令和6年3月策定）】 将来像まちづくりのコンセプト つくってつながり、つながってつくる。「創造・交流タウン名駅南」 まちづくりの方針1 賑わいがあふれるウォーカブルなまちづくり まちづくりの方針2 公民の投資により再生するまちづくり まちづくりの方針3 新たな体験を誘発し様々な挑戦を支えるクリエイティブなまちづくり まちづくりの方針4 地域のかで地域を育てるまちづくり		

様式(1)-④-4

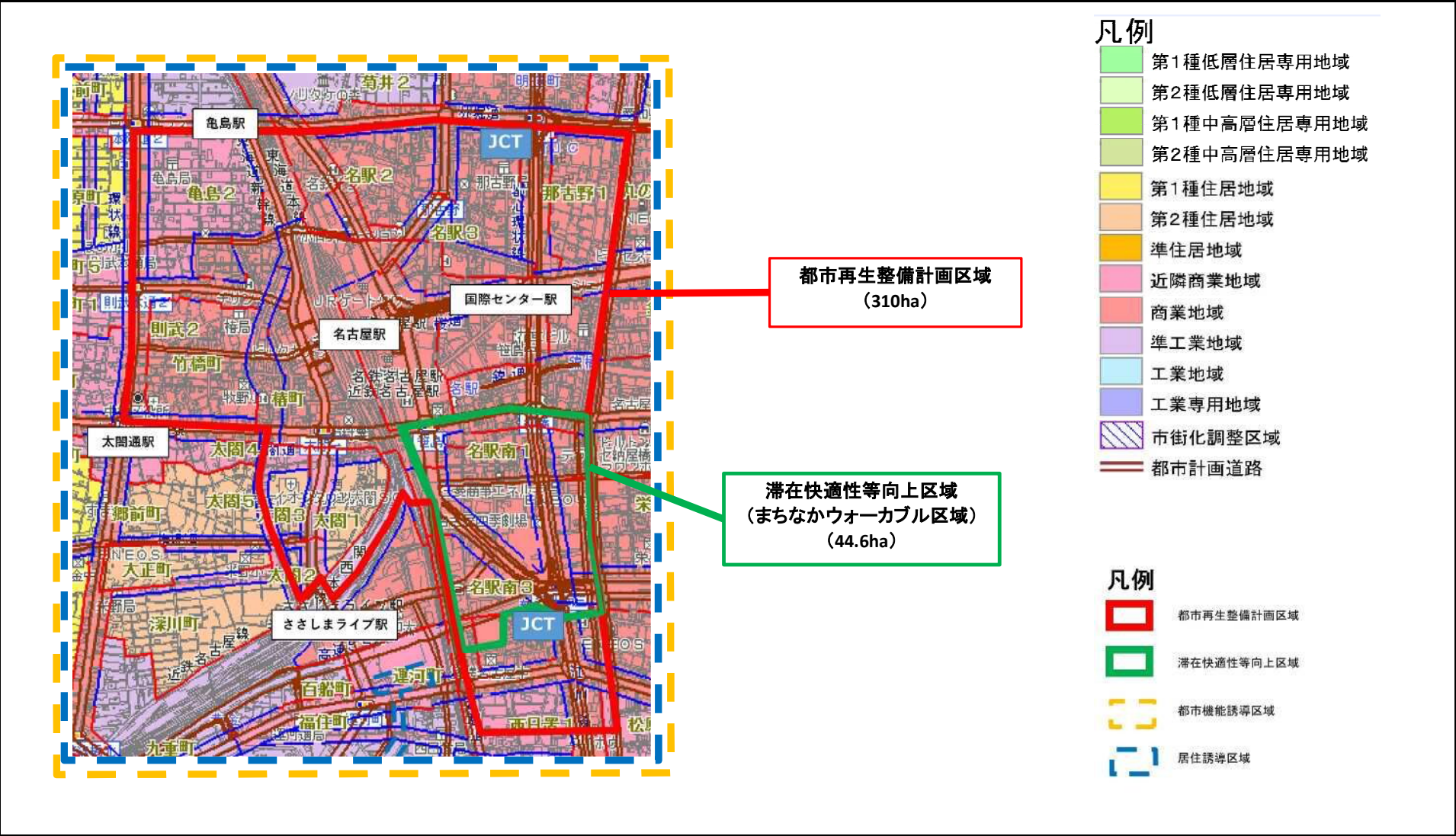
(金額の単位は百万円)

...A

...B

[illegible]

名駅周辺地区(愛知県名古屋市)	面積	310(44.6) ha	区域	名古屋市西区・中村区・中川区の一部
-----------------	----	--------------	----	-------------------



名駅周辺地区(愛知県名古屋市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	○魅力ある地域資源を活かした多彩なまちをつくり、相互につながることによって一体性のある、めぐりたくなるまちの形成 ・城下町から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様なまちの魅力を育て、活かす ・人が主役の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める	代表的な指標	シェアサイクル利用回数 (回)	0 (R5年度) → 1000 (R11年度)
			主要交差点の歩行者交通量 (百人/日)	89 (R5年度) → 93 (R11年度)
			公共空間等を活用した催事の箇所数 (箇所・日)	9 (R5年度) → 20 (R11年度)

